

**国**  
**(問題)**  
**語**  
 2013年度

〈H25072012〉

**注 意 事 項**

- 1 問題冊子および記述解答用紙は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
  - 2 問題は2～10ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
  - 3 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
  - 4 受験番号および氏名は、試験が開始してから、記述解答用紙の所定欄（2か所）には受験番号と氏名を、マーク解答用紙の所定欄には氏名のみを記入すること。
- 受験番号は正確に正しいに記入すること。読みづらい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- 5 マーク欄は、はっきり記入すること。また、訂正する場合は、消しゴムで正しいに、消し残しがないようによく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

マークする時	● 良い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い

- 6 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

次の文章を読んで、あとの問に答えよ。

1 中秋の月は四海陰晴を同じくす、といふは東坡の説なりとて、五山の僧の対州に在番せしが、いづれの年か京と陰晴ことなりしを見ていぶかしくいひたり。今年文化丙子(注1)中秋、予が郷の神辺(注2)は快晴たりしに、讚州は陰かりたりとて、友人の僧義立歌をよみ示せしに、

はるるやと雲にむかひてこふ月の丑みついまはたのまれぬかな

同夜播州も

A

とて、友人菅岱立(注3)が書中に詩を見せけるに、

方に焦土を開きて家楼を起こし

工役紛囂(注4) 仲秋に属す

3 頼ひに佳期の閏月を存する有り

従侘(注5) 此の夕べ清遊を少くを

同夜、備前の武元立平は、尻海(注6)といふところに舟を泛べしに「天気不快。尚ほ閏月は如何と刮目する」と、書中にいひ来り、且つ其の詩に、「西嶺夕霞魚尾のごとく赤く、東洋雲氣鼈頭(注7)のごとく黒し」といふ句あり。北条霞亭、此の夜須磨の月を賞する歌に、

4 こよひしもいづくはあれど須磨明石淡路島山かかる月影

5 つひの身のおもひ出ならん須磨の浦秋のものなかの有明の月

かくよみて書中にいひ来りしに見れば、須磨は清光なりしとおもはる。参州岡崎昌光寺の万空上人の書中に無月のよしにて、詩に、

水霧山雲 晚未だ収まらず

風 過雨を吹きて林頭に入らしむ

嫦娥(注4) 今夜冷に堪へがたく

陰虫(注5) に付与して暗愁を訴ふ

ときこえければ、雨ふりしなるべし。後に備前北方(注6)の友人より来書に、「中秋、初更まで陰り、二更より曉まで快晴なりしに、岡山はこれに反す」といふ。参州は百里、須磨は四十里、播州は三十里にたらず、尻海は二十里、讚州は僅かに十里ばかり、岡山は十三里、岡山と北方の間九里なるに、かかる B のたがひあり。常年もかかるべけれども、今年はじめて心つきてするすなり。其の九月中旬、霞亭伊勢より帰りて話しけるは、中秋、京は陰翳(注7)ふかく、須磨の清光をかたりても人信 C ばかりなりし。伊勢は風雨にて戸をひらき窓をあくる人もなく、大和にて芳野(注8)は殊に大風なりしと聞きしよし。其の後筑前の月形七介来り話せしは、其の地は近年稀なる大清光なりしとなり。

(注1) 文化丙子…文化十三(一八一六)年。

(注2) 紛囂…建築工事の慌しい様。

(注3) 鼈頭…ウミガメの頭。

(注4) 嫦娥…中国の伝説上の美女神で、仙女西王母から不死の薬を盗んで月へ逃げたため、月でヒキガエルにされた。月の代名詞となる。

(注5) 陰虫…ヒキガエル。嫦娥の化身と地上にいる普通のヒキガエルを掛けている。

問一ノ一 傍線部1「いひたり」とあるが、この言葉の主語として最も適切なものを、次の中から一つ選び、答一ノ一の欄にマークせよ。

ア…東坡 イ…対州 ウ…五山の僧 エ…義立 オ…予

問一ノ二 傍線部2「丑みつ」は時刻を表わす古語「丑三つ」であるが、この語が掛詞であるとする、もう一つの語句を漢字二字で表記した場合、最も適切な組み合わせを次の中から一つ選び、答一ノ二の欄にマークせよ。

ア…「牛」と「密」 イ…「大人」と「見」 ウ…「愛」と「満」 エ…「憂」と「見」 オ…「大人」と「満」

問一ノ三 空欄Aに入る最も適切な語を、次の中から一つ選び、答一ノ三の欄にマークせよ。

ア…はるるや イ…くもれるや ウ…はれたり エ…あめふれるや オ…くもれり

問一ノ四 傍線部3「頼ひに佳期の閏月を存する有り 従佐此の夕べ清遊を少くを」という二句の意味として、最も適切なものを、次の中から一つ選び、答一ノ四の欄にマークせよ。

- ア…今年八月が閏月で中秋が二度あるので、初めの中秋が曇っても気にせぬ。
- イ…今年八月が閏月なので、それを頼みにして、今晚はあまり出歩かない。
- ウ…今年八月が閏月で一度しかないのので、他の助言で少人数でも月見をする。
- エ…今年八月があいにく閏月に当たるので、今晚の月見も興ざめである。
- オ…今年八月中に閏月が見られるという予報を頼りに、今夜は遊びを慎む。

問一ノ五 傍線部4「こよひしもいづくはあれど」の意味として、最も適切なものを、次の中から一つ選び、答一ノ五の欄にマークせよ。

- ア…今晚はどこへ行っても人が出ているが
- イ…今晚はどこに月が出るか分からないが
- ウ…今晚はどこで腰を据えるのがよいか
- エ…今晚はどこもかしこも霜が降りているが
- オ…今晚はどこに出ている月も美しいが

問一ノ六 傍線部5「つひの身のおもひ出ならん須磨の浦秋のものなかの有明の月」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選び、答一ノ六の欄にマークせよ。

- ア…相手の身にとつても想い出となるのは、須磨の浦で見た秋の最中の有明の月であることよ。
- イ…相手の身にとつても重い申し出であるのは、須磨の浦で秋を迎えて有明の月を見ろとの命令。
- ウ…生涯の想い出になるであろうか、須磨の浦で秋の夜に見た海上の月は。
- エ…生涯の想い出になるであろう、須磨で見た中秋の夜明け頃の月は。
- オ…一对の男女にとつて想い出となるのは、須磨で見る中秋の夜が明ける頃の月だろう。
- カ…一对の男女にとつて想い出となるはずなのは、須磨の浦で最中を食べながらみた海上の月である。

問一ノ七 空欄Bに入る最も適切な語を、本文の中から抜き出して、記述解答用紙の答一ノ七の欄に楷書で記せ。

問一ノ八 空欄Cに入る最も適切な語句を、次の中から一つ選び、答一ノ八の欄にマークせよ。

- ア…多き
- イ…たる
- ウ…足らず
- エ…せぬ
- オ…ずる

問一ノ九 傍線部X「東坡の説」は、中国北宋の文人、蘇軾作の左に掲げる漢詩の一句「万里同陰晴」に由来するものである。この句を含む漢詩を読んで、あとの問に答えよ。

舒子<sub>シ</sub>在<sub>リ</sub>汶上<sub>ニ</sub> 閉<sub>シ</sub>門<sub>ヲ</sub>相<sub>ヒ</sub>對<sub>シ</sub>清  
鄭子<sub>テイ</sub>向<sub>ヒ</sub>河朔<sub>ニ</sub> 孤舟<sub>コ</sub>連<sub>リ</sub>夜<sub>ノ</sub>行<sub>ク</sub>  
頓子<sub>ト</sub>雖<sub>モ</sub>咫尺<sub>ニ</sub> 兀<sub>ト</sub>如<sub>シ</sub>在<sub>ル</sub>牢<sub>ガ</sub>扃<sub>ニ</sub>  
趙子<sub>テイ</sub>寄<sub>リ</sub>書<sub>ヲ</sub>來<sub>リ</sub> 水調<sub>スイテウ</sub>有<sub>リ</sub>余<sub>ノ</sub>聲<sub>ニ</sub>  
悠<sub>ナル</sub>哉<sub>ニ</sub> 四子<sub>シ</sub>心<sub>ヲ</sub>共<sub>ニ</sub>此<sub>ノ</sub>千<sub>ノ</sub>里<sub>ノ</sub>明<sub>ク</sub>  
明<sub>メイ</sub>月<sub>ツキ</sub>不<sub>レ</sub>解<sub>レ</sub>老<sub>シ</sub> 良<sub>リ</sub>辰<sub>チン</sub>難<sub>ク</sub>合<sub>フ</sub>并<sub>ニ</sub>  
回<sub>ク</sub>頭<sub>コウ</sub>坐<sub>シ</sub>上<sub>ノ</sub>人<sub>ヲ</sub> 聚<sub>ス</sub>散<sub>ス</sub>如<sub>シ</sub>流<sub>ノ</sub>萍<sub>ニ</sub>  
嘗<sub>チ</sub>聞<sub>ク</sub>此<sub>ノ</sub>宵<sub>ノ</sub>月<sub>ヲ</sub> 万<sub>マン</sub>里<sub>リ</sub>同<sub>ニ</sub>陰<sub>ノ</sub>晴<sub>ヲ</sub>  
天<sub>テン</sub>公<sub>コウ</sub>自<sub>ラ</sub>著<sub>ス</sub>意<sub>ヲ</sub> 此<sub>ノ</sub>會<sub>ノ</sub>那<sub>ノ</sub>可<sub>ク</sub>輕<sub>ク</sub>  
明<sub>メイ</sub>年<sub>ネン</sub>各<sub>ク</sub>相<sub>ヒ</sub>望<sub>ム</sub> 俯<sub>ヘ</sub>仰<sub>グ</sub>今<sub>ノ</sub>古<sub>ノ</sub>情<sub>ニ</sub>

(注) 水調…中国古典詩歌の曲調名。

(I) 傍線部 6 「明月不解老 良辰難合并」の二句の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、答一ノ九(I)の欄にマークせよ。

ア…明月の光は衰えないので、なかなか会えぬ者同士を一堂にあつめられる。  
イ…明月は老いの悲しみを知らず、中秋の夜を遠くの友と一緒に楽しめない。  
ウ…明月は雲に隠されぬままで沈んだので、千載一遇の良夜を満喫できた。  
エ…明月が知らぬ老衰ゆえに、人は良夜とは縁遠いままだ。  
オ…明月の美を理解しない老人とは、中秋の楽しみを分かち合えない。

(II) 傍線部 7 の二句は「かつて同席していた仲間が、水に流れる浮草のようにはらばらになってしまっていた」という意味である。この二句の書き下し文として、最も適切なものを、次の中から一つ選び、答一ノ九(II)の欄にマークせよ。

ア…回頭坐に上る人、聚り散ずる流るる如き萍  
イ…頭を坐上の人に回せば、聚り散じて萍の如く流る  
ウ…頭坐の上人を回せば、聚散流るる如く萍いたり  
エ…回らず頭坐上人、聚散して如くこと流萍  
オ…頭を回せば坐上の人、聚散すること流萍の如し

(III) 傍線部 8 の「此宵」とは、陰曆の何月何日のことを指すか。最も適切な月日を楷書の漢字で、記述解答用紙の答一ノ九(III)の欄に記せ。

(IV) 傍線部 9 「天公自著意」とあるが、どのようなことに「著意」するのか。最も適切なものを、次の中から一つ選び、答一ノ九(IV)の欄にマークせよ。

ア…中秋の夜に離れた者同士が悲喜を共有できるように。  
イ…中秋の夜にはどこにいても必ず晴れて月が望めるように。  
ウ…中秋の夜には今と昔と変わらずに月が輝くように。  
エ…中秋の夜に友達同士が集まれば月が雲に閉ざされるように。  
オ…中秋の夜に人が聚まることはどうしても重んじなくてはならぬように。

(V) 傍線部 10 「各」とあるが、この語が示す五人の人物の中に教えられる人物の姓を、次の中から一つ選び、答一ノ九(V)の欄にマークせよ。

ア…祝    イ…万空    ウ…李    エ…北条    オ…蘇

『生きる希望 イバン・イリイチの遺言』(以下「遺言」と略称する)は文字通りイリイチの最後の言葉だ。いろんな意味で世間を騒がせ続けた煽動ともいべき思想家が最後に到達した洞察と境地に、いま私は畏敬の念を抱きつつ立ち合うほかはない。

『遺言』はイリイチの晩年の真の意味で反時代的な思索の終点に立ち現われた言説であり、今日の文明の反人間的なおそるべき様相の起源をキリスト教の変質・墮落に求めるといふ瞳目すべき見解を包括的に提示したという点で、キリスト者イリイチの最後にたどりついた信仰告白、すなわち一個の愚者としての自己告白であった。

イリイチはイエスが語るよきサマリヤ人の寓話から話を始める。この話は『ルカ伝』第十章にある。「ある人がエルサレムからエリコに下って行く途中、強盗どもが彼を襲い、その着物をはぎ取り傷を負わせ、半殺しにしたまま逃げ去った。たまたま一人の祭司がその道を下ってきたが、この人を見ると向う側を通って行った。同様に、レビ人もこの場所にさしかかっていたが、彼を見ると向う側を通って行った。ところが、あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒を注いで包帯をしてやり、自分の家畜に乗せ、宿に連れて行って介抱した」。イエスはこの三人のうち誰が被害者の隣人となったのかと問うのである。

この慈悲心を説く変哲もない挿話から、イリイチはおどろくべき考察を引き出す。祭司もレビ人も神殿と共同体の儀式に属している人間である。彼らが傷ついた男を看過したのは彼が倫理の伝統的基盤たる同族ではなかったからだ。見過すことこそ彼らの倫理だったのである。ところがサマリヤ人はイスラエルの北に住むよき者である。その彼が傷ついた男を介抱したのは、傷ついたユダヤ人をパレスチナ人が介抱するようなものだ。「彼は、自分の同族を優先する自文化中心主義を越えて出ているばかりでなく、自分の敵を介護することで一種の国家反逆罪を犯している人間」だとイリイチは言う。

つまり、人間の存在の新たな地平がこのとき開けたのである。イリイチは言う。わたしの隣人とはわたしを選ぶ人のことであり、隣人という新たな人間関係は二人の間でなされる自由な創造であり、わたしたちの決断のみに依存する関係なのだ。これこそが他者のうちにキリストを見る愛の受肉である。そして近代の創造物たる教育・福祉・公正の諸制度は、すべてキリスト教が開いた隣人への愛という新しい地平のその後の展開にはかならない。

話がこれで終るなら、イリイチはやはりカトリックの神父なのだと思える。ところが彼は<sup>2</sup>おそるべき逆説に話をもって行く。この新しい地平は制度化という危険を伴っていた。「この新たな愛を管理したい、場合によっては、法で定めたい、それを保証する制度を創設したい、そしてそれに反対する者を犯罪者とすることでそれ(制度)を保護したいといった誘惑」である。当然これは新しい権力を要求する。「最初にまず教会、のちにはその鑄型に刻印された世俗の諸制度」が権力となる。近代のルーツのどこを探しても、見出されるのはキリスト信仰の召命を制度化し法制化し管理しようとする教会の試みなのだ。

つまりイリイチは、教育・福祉・公正のために設けられた諸制度が生み出す現代の地獄は初原におけるキリスト的隣人愛の変質・墮落の結果だと言っているのだ。最善の墮落は最悪なのである。「一番甘美なものがその行いによって一番醜悪なものとなる」(シェイクスピア)。これはおどろくべき洞察である。

近頃は猫も杓子もヨーロッパ中心主義を批判するのが学界言論界のモードなので、近代は何もヨーロッパから移植されたのではなく、世界の各地域の自主的な要求として近代化が生じたのだというのが、何やら新しくかつ良心的な言説ということになっている。そういう言説からすれば近代の起源をキリスト的隣人愛の制度化に見出すイリイチの考えは相も変わらぬヨーロッパ中心主義ということになりかねない。しかし、このような近代の多元的発生説は現代文明の<sup>3</sup>惨憺たる実状を隠蔽する一種の欺瞞なのだ。なるほど十八世紀から十九世紀初頭にかけて、世界の各地でそれぞれの「近代」が生れる胎動があった。だが、そのさまざま「近代」の芽を<sup>4</sup>圧殺し、世界を今あるがごとく近代に画一化したのはまぎれもなくヨーロッパ生れの近代だったのである。

イリイチは論壇に登場して以来一貫して、行政官僚や各種専門家によるケアの提供が、人びとから自立的かつ共同的な生存の基礎を奪い、人びとを<sup>5</sup>際限のない、かつまたけつして満たされることのないニーズに<sup>6</sup>憑依された存在に変えてしまうと主張してきた。彼によれば現代文明の悲惨の根元はここにあったのである。もちろん、こんな途方もないことを主張したのはこの人以外にはいない。彼の言うところに従えば、人類の<sup>7</sup>人権と福祉のために奮闘してきた良心的な人びと、今なおそのために自負と使命観をもって日々働いている人びとこそ、今日の文明の非人間的様相を生み出した張本人ということになる。

再び言うが、これは途方もない主張のように聞える。だが、今日の福祉社会の泥沼化した情況、さらには人権社会の強迫的な情況を前にしたとき、イリイチのこういつた主張が奇妙なりアリティを帯びることは否定しようがない。私が反射的に思いつくのは、<sup>8</sup>ディケンズの『われらが共通の友』に登場する無知な一老婆である。彼女は<sup>9</sup>何よりも「**甲**」につかまることを怖れている。そしてそれを怖れるばかりに放浪の旅に出る。旅先の小さな町で彼女は<sup>10</sup>いろんな雑用を務めて暮らすことができるし、人びとのささやかな情けを当てにすることもできる。その旅先で彼女は野垂れ死をするが、彼女は<sup>11</sup>一箇の自由な人格として死んだのである。

イリイチの言う専門家のケアはマルクス主義その他の社会学や精神分析をも含んでいる。『遺言』のなかで彼は言う。「今日の社会学的思想は、精神分析であれ、マルクス主義であれ、ある人のその人自身に関する感覚を、イデオロギー、社会的条件、氏素性、そして教育によって形作られた幻影であるとしています」。すなわち学者とか思想家とか呼ばれる専門家は、われわれが何者であるかということまで教えこむ。こういったケアは、イリイチによれば人びとから他者と直面することによって生ずる驚きを奪い、ひいては人間の自由と愛の根拠を突き崩すのである。

イリイチ最後の発言のなかで、私の心に最も深く刻印されたのは、信仰する者は一個の愚者だという一行である。初期のキリスト教徒は、十字架にかけられたロバの頭をもつ男を礼拝する姿に描かれていたという。それは「キリスト教を愚かさの一形態として理解する一例」だとイリイチは言う。彼によれば、キリストという模範は「自由とは愚かさであるという感覚」の例証なのである。そういえばかの親鸞も自らを愚禿と称していた。イリイチは古代ローマの壁に描かれた前述の絵の写真を机の上に常置していたそうだ。イリイチに誘われて私は言いたい、知識人であるというのは

本来一個の愚者たらんとすることであると。

一時期イリイチは高度消費社会からプラグを抜くということを主張した。商品集中社会への批判、具体的には学校・高速道路・医療への批判は、つまり一連の実践を要請していたのである。だが、イリイチの言説をこのように当為化し、実践の指針ととらえると、どこまでプラグを抜くのがただちに問題となる。水道水を使うな、高速移動手段を忌避せよ、自転車に乗れ等々、問題はシエウシエウ不可能な範囲にまで拡がり、ついにはまるで修道院の規範をどう定めるかといった滑稽な次元に転落せざるをえない。

プラグを抜くということをこのように実践的な規範の集合とみなすかぎり、どの行為が許されどの行為が許されぬか、それこそ煩瑣な神学論争の種になりかねない。しかも、それがエコロジズムと結びつくと、産業主義文明から離脱して自然のなかで暮そうといった、当人の好みとしか言いようのないまったく普遍性を欠いた主張にさえ帰結してしまう。

イエスの場合にもおなじことが生じた。イエスの言説はそれを規範と受けとる限り、実行不可能なのである。イリイチもおなじことだ。彼の言説を規範化しようとする者はただちにその実行不可能性に突き当たる。しかしイリイチは、人びとが彼の教えを規範として墨守する修道僧たることを望んだのだろうか。そんなはずはあるまい。なぜならそのような規範化は、

私はイリイチの言説を一度たりと当為として読んだことはない。彼の言説は奇妙な方角から射しこむ啓発の光であり刺激だった。私は彼の思索によって世界への理解を深めたのだ。そしてこの「遺言」とその前の『イリイチ語録』のおたつのインタビュは、それまでのイリイチとはまた違うゆたかなよろこびと、新鮮なおどろきの泉だった。私は長い間イリイチと対座してきた。これからもそうし続けることだろう。イリイチは私の師でもなく、かと言って同志などでもない。私は一人のかけがえない友人を得たのだ。彼の著作を読むときに聞える声は、まさにその刻を祝福するものなのだから。

(渡辺京二「民衆という幻像」より)

問二ノ一 傍線部 A・B にあてはまる漢字を、記述解答用紙の答二ノ一の欄に楷書で記せ。

問二ノ二 傍線部 1「人間の存在の新たな地平」を開いた行為とはどのようなことか。その説明として適切ではないものを、次の中から一つ選び、答二ノ二の欄にマークせよ。

ア…国家反逆罪を犯さないよう自分の敵を介護せず看過すること。

イ…倫理の伝統的基盤である同族ではない人を介抱すること。

ウ…自分の同族を優先する自文化中心主義を越え出ること。

エ…わたしの決断のみによってわたしの隣人を選ぶこと。

オ…他者のうちにキリストを見る愛の受肉のこと。

問二ノ三 傍線部 2「おそるべき逆説」とあるが、何が「おそるべき逆説」なのか。その内容の説明として適切ではないものを、次の中から一つ選び、答二ノ三の欄にマークせよ。

ア…新たな愛を管理したいという誘惑が、新しい権力を要求し、教会、のちには世俗の諸制度が管理するようになったこと。

イ…キリスト的隣人愛の変質・墮落により、教育・福祉・公正のための諸制度が現代の地獄を生んでしまったこと。

ウ…キリスト的隣人愛の制度化によるヨーロッパの近代が、世界の各地にあつたさまざまな「近代」の芽を圧殺してしまったこと。

エ…行政官僚や各種専門家によるケアの提供が、人びとを際限なく満たされることのないニーズに憑依された存在に変えてしまったこと。

オ…人類の人權と福祉のために奮闘してきた良心的な人びとが今日の文明の非人間的様相を生み出してしまったこと。

問二ノ四 傍線部 3「一種の欺瞞」とされるのはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、答二ノ四の欄にマークせよ。

ア…近代はヨーロッパから移植されたものではないとして、猫も杓子もヨーロッパ中心主義を批判するのが学界言論界のモードだから。

イ…「近代」は本来画一的なものではなくてさまざまな「近代」があり、世界の各地域の自主的な要求として近代化が生じたから。

ウ…近代の起源をキリスト的隣人愛の制度化に見出すイリイチの考えは、相も変わらぬヨーロッパ中心主義ということになりかねないから。

エ…世界はヨーロッパ生れの近代によって画一化されてしまっているのに、そのことで起こった問題を隠そうとするための言説だから。

オ…十八世紀から十九世紀初頭にかけて、世界の各地で生れかけた「近代」の芽を圧殺したのがヨーロッパ生れの近代であることの隠蔽だから。

問二ノ五 空欄甲に入る表現として最も適切なものを、次の中から一つ選び、答二ノ五の欄にマークせよ。

ア…警察    イ…人権    ウ…文明    エ…病氣    オ…福祉

問二ノ六 傍線部4「高度消費社会からプラグを抜く」という主張を、筆者はどのように捉えているか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、答二ノ六の欄にマークせよ。

ア…信仰する者は一個の愚者だと主張するイリイチ自身、一個の愚者たろうとする知識人であり愚かな主張だ、として受け止めた。  
イ…実践的な規範の集合とみなすかぎりは実行不可能なものであるが、世界への理解を深めるための啓発の光として受け止めた。  
ウ…一連の実践を要請するものとして、水道水や高速移動手段を使わない、といった具体的な生活の指針として受け止めた。  
エ…エコリズムと結びつき、当人の好みとしか言いようのない普遍性を欠いた主張として受け止めた。  
オ…イエスの言説と同じく、規範化しようとする実行可能性に突き当たるが、修道僧として教えを墨守すべきものとして受け止めた。

問二ノ七 空欄乙に入る表現として最も適切なものを、次の中から一つ選び、答二ノ七の欄にマークせよ。

ア…産業主義文明から離脱して自然のなかで暮そう  
イ…わたしの隣人とはわたしが選ぶ人のことだ  
ウ…信仰する者は一個の愚者だ  
エ…自由とは愚かさである  
オ…最善の墮落は最悪だ

問二ノ八 本文全体の内容と合致するものを、次の中から二つ選び、答二ノ八の欄にマークせよ。

ア…よきサマリア人の寓話からイリイチが引き出したものは、見過すことこそ倫理という当時の規範であり、その墮落によって生じた文明の非人間的様相である。  
イ…よきサマリア人の寓話からイリイチが引き出したものは、隣人愛という新たな地平、そしてその変質によって生み出された文明の非人間的様相である。  
ウ…よきサマリア人の寓話からイリイチが引き出したものは、教育・福祉・公正の諸制度の起源であり、カトリックの神父としての観察による文明の非人間的様相である。  
エ…現代の地獄とは、ディケンズの作品に登場する一老婆のように、人びとのささやかな情けを当てにして野垂れ死をするような泥沼化した状況である。  
オ…現代の地獄とは、学校・高速道路・医療を否定し、産業主義文明から離脱して自然のなかで暮そうといった普遍性を欠いた主張に見出せる。  
カ…現代の地獄とは、人類の人権と福祉のために奮闘してきた良心的な人びとが、人びとから自立的かつ共同的な生存の基礎を奪ったことで生じた。

近代法の常識によれば、アジア・太平洋戦争の時期に日本国家が犯した虐殺や非人道的な行為に対して、戦争中に未成年であった日本人や戦後生まれの日本人にその法的な責任を問うことはできない。同じ家族であっても、親が犯した犯罪の責任を子にとらせることはできない。いわんや過去に対する現在の責任の永続性の根拠となっているのは、家族ではなく国民である。国民・民族はたえず変容する集団であり、歴史的にも最近一・二世紀に作り出された制度である。日本の国民国家も一八六八年の明治維新以来変質と拡大を続け、日本人という国民も領土の併合や移住を通じてたえず変容し続けてきた。さらに一九四五年の大日本帝国の崩壊とともに、軍事占領や委託領を除いたものに限っても、日本国家が領有権を有していた領土の面積にして四割以上があらたに国際連合の信託統治領になったり、別の国家の領有に帰したり、あるいは琉球列島は米軍政府 (United States Civil Administration of the Ryukyu Islands) の領土になったのである。一九四五年から一九五二年にかけて、それまで日本国民であった者の少なくとも約三割が日本人であろうとすることをやめる、あるいは強制的にやめさせられることになる。国民国家としての日本が成立して一・二世紀後半から二一世紀の現在に至るまで、「日本人とは誰か」という問いには、常に「どの時点か？」という疑問の副詞句がつけ加えられなければならないのである。

にもかかわらず、戦後生まれの日本人でも、戦争中の日本人が犯した行為の歴史的な責任を逃れることはできない、と私は考えている。だから、非戦闘員の虐殺や非人道的な行為を犯した人びとが死んでしまえば、戦後世代の日本人は責任を免除されるというわけにもゆかない。それは、いわゆるドイツ人と看做される人びとが、今でも過去のナチズムによる虐殺や人種主義にたいする歴史的責任から逃れられないことと変わらない。それは、白人と自己画定する人びとが、過去の植民地主義や奴隷制への応答義務から逃れられないのと同じである。奇妙なことであるが、国民、人種、民族、あるいは宗教といった自己画定の範疇をめぐって、歴史的な責任については連座制が妥当であるかのようにみえるのだ。人種差別を正当化するさまざまな法律や国家の制度がほぼ廃止された一九七〇年代以降に合州国に生まれた白人であっても、たとえば、奴隷制についての法的な責任はなくても歴史的な責任を逃れることはできない。人種主義を正当化する法律や国家の制度が廃止されることと、人種主義が廃止されることはまったく異なった事態である。人種主義を正当化する国家の制度が何を指すかは、簡単には限定できない。しかしここではとりあえず国政と地方政治に参加する参政権、教育を享受する権利、徴兵制などを人種主義が制度的に明示される国家の領域として考えておこう。いうまでもないことであるが、参政権、教育、徴兵などにおいて平等の処遇を享受する保証ができたとしても、人種主義の現実が霧散するわけではない。同様に、一九四五年八月一日以降に生を受けた日本人であっても、「従軍慰安所」や日本軍の犯した虐殺についての歴史的な責任を黙殺することはできない。

そこでこんな状況を想定すると、歴史的な責任と自己画定の関係が解りやすくなるかもしれない。たとえば私は連合王国 (英国) に籍をもつが、母方の祖父母は一九三〇年代に日本国民であった、としよう。そのような私が、たまたま中国で、靖国神社へ参詣する日本の首相を弾劾する中国の知人と出会ったとしよう。その知人は、私のことを日本人だと決めてかかっており、日本人の戦争犯罪の責任を私に向かって詰問する。どのように対応したらよいだろうか。

ここで、私は幾つかの選択肢をもつ。すべての選択肢を漏れなく列挙するのは難題だから、とりあえずそのうちの三つを取り出してみよう。(1)私は日本籍をもたないから責任はないとして、友人の詰問を無視する。(2)感情的な議論は無駄で不愉快であろうから、その場を去る。(3)相手の詰問をまずは引き受ける。歴史的な責任は、(1)でも(2)でもなく、まず(3)の対応のなかにあると私は考えている。たとえ間違った指名であったとしても、知人の問い掛けに応じて私は日本人の立場を受け入れざるをえない。とりあえず私は日本国民に自己を画定する。日本国民に自己を画定することは、この状況では対話を中断しないための必要条件だからである。と同時にこの選択は、富山一郎が「お国は？」で、山之口猷の同名の詩をひきつづ、次のように述べている「暴力の予感」にかかわる検証の手続きを通過するためでもある。

まず「お国は？」から始まる一連の問いかけが、<sup>3</sup> 惘嗚めいた響きをもっていることを、聞き取らなければならぬ。この惘嗚により「僕」は、問いかげが期待する、というより期待していると「僕」が考える自己像を、<sup>3</sup> 否応なしに自分の内部に見いださざるを得ないのである。

相手の詰問を引き取った上で、自分が日本国家の臣民という意味では日本人ではないにもかかわらず、日本国民という嫌疑をかけられても致し方がない血縁をもつこと、さらには過去の罪業を犯したのは祖父の世代の日本人であって、犯罪が犯された時点では私はこの世に存在していなかったこと、を詰問する中国の知人に説明しなければならぬだろう。それが応答義務を果たすという意味での歴史的責任の第一歩だからである。私が「とりあえず日本人である」ことを引き受けるのは、<sup>4</sup> そうすることによって応答可能性の回路を作り出すためなのである。

「暴力の予感」を通過しないかぎり普遍性の問題は抽象的なままにとどまる。もちろん、こうして切り開かれた相手との対話の領域はほんの糸口にすぎない。対話にはこの先がある。しかし現在、歴史的な責任が問われるさまざまな局面を考えたとき、国籍・民族・人種・宗教などの指標にかわる自己画定の問題は避けるわけにはゆかないように思われる。国籍、民族、宗教といった三つの指標に限っただけでも、ユダヤ系フランス人によって詰問されるドイツ系アメリカ人、アルメニア系アメリカ人によって詰問されるトルコ系ドイツ人、パキスタン系英国人によって詰問されるインド系オーストラリア人、などの出会いを考えることができるだろう。それぞれの詰問の背後には歴史的悲劇があるはずである。これらの錯綜した国籍・民族・宗教の同一性を含む対話状況のなかで歴史的責任は問われるのである。日本国民の歴史的責任も、このような出会いを予想している。詰問している他者がいるからこそ、私は歴史的責任に直面せざるをえないのである。潜在的に歴史的責任を私に向かって詰問してくるような他者の住む世界に私は投げ入れられており、そのような他者と共生することは私の歴史的実存の掛け替えない事実性なのである。

ただし、歴史的責任を引き受けるということは、過去に国民、人種、あるいは民族が集団として犯した犯罪をただちに個人の罪責として、自らが有罪であることを認めることではない、という点は留意しておこう。歴史的責任を負うということは罪を引き受けることではなく、何よりも個人としての応答の義務を引き受けることであり、<sup>6</sup> 応答の発話行為の主体としてそれらの集団への自己画定をとりあえずおこなうことなのである。しかもこのような集団への自己画定は、状況の一定の構造化を要請する「場」がそれなりに準備されていなければ、個人の自己画定は「空振り」になって



しまうだろう。まず、その場が日本人でない人を含んでおり、応答の発話行為が日本人でない人びとへアドレスされるように構造化されていることが必要である。例えば、「従軍慰安所」や「南京虐殺」などの日本軍や日本の国家が犯した犯罪についての告発に応えることで、応答の発話行為の主体として「日本人」としての自己画定を行なうことには、「日本人」でない人びとへの語りかけという契機が必ず含まれているのでなければならぬ（さらには、第三者あるいは証人の存在が要請されるが、議論を複雑にすることを避けるために、ここでは触れないでおこう）。事実上、応答の状況に外国人が居なかつたとしても、「日本人」という自己画定が可能であるためには、非「日本人」の仮想された存在が要請されるからである。自己画定の範疇としての日本国民が現出するためには、日本国民でない人びとが臨在しているのでなければならぬのだ。「語りかける」ことができる人として潜在的に「そこに居て」くれなければならないのである。

ただし、このように「そこに居て」くれる「中国人」の詰問者は、たんに私が「日本人」であるための相互認定のための対照項としての他者であつてはならない。たんなる相互認定のために消費される他者の事例には事欠かない。自分が偏見のない日本人であることを誇示するために参照される「僕の在日の友人」。自らの「西洋人の男性性」を確証するために愛玩される「東洋の女性性」の象徴としての「蝶々さん」。「日本人」のアイデンティティを保証するために措定される「アメリカ人」、等々。つまり、そこに居てくれるのは「中国人」以上の誰かであつて、この人物と私の間には「中国人」と「日本人」という対比以上の、異なつた構図へと潜在的に開かれた関係が予想されている必要があるのである。詰問する者と詰問される私が、両者ともに国民や民族といった立場ではない別の関係に移行しうるときにのみ、私たちは歴史的責任を正面から直視することができる。歴史的責任は、私を民族・国民的なアイデンティティから解放してくれるのである。歴史的責任は、だから、未来へ向かつての変革の仕事とかかわつているのである。

（酒井直樹「希望と憲法」より）

問三ノ一 傍線部1「戦後生まれの日本人でも、戦争中の日本人が犯した行為の歴史的な責任を逃れることはできない」とあるが、筆者はなぜそのように考えるのか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、答三ノ一の欄にマークせよ。

ア…戦争犯罪を償うべきなのは、たえず変容する集団である国民であるが、その同一性は戦後世代の日本人によつて画定されるものであるから。

イ…親が犯した犯罪の責任を子にとらせることはできないが、戦争犯罪の責任主体はたえず変容する集団である国民であり、戦後生まれの日本人も変容し続けているから。

ウ…戦争犯罪を償うべきなのは、責任の永続性の根拠となつて国民に自己画定する人であり、歴史的な責任については連座制が妥当であるから。

エ…親が犯した犯罪の責任を子にとらせることはできないが、戦争中の日本人が犯した行為には時効はなく、歴史的な責任については連座制が妥当であるから。

オ…戦争犯罪を償うべきなのは、戦争中の日本人と同じ国に生まれた全員であり、その範疇に属するかぎり応答義務から逃れられないから。

問三ノ二 傍線部2「歴史的な責任は、(1)でも(2)でもなく、まず(3)の対応のなかにあると私は考えている」とある。それはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、答三ノ二の欄にマークせよ。

ア…たとえ間違つた指名であつたとしても、とりあえず日本国民に自己を画定することにより、私は国籍をもつ責任主体となることができらるから。

イ…歴史的な責任は、対話を中断せずに、私が日本国籍をもたないため責任はないことと感情的な議論は無駄であることを説明することにより、明確化されるから。

ウ…たとえ間違つた指名であつたとしても、日本人の立場を受け入れることで、私は国民としての応答義務を果たせるから。

エ…歴史的な責任は、相手の詰問をまずは引き受け、相手の立場を尊重して対話を中断しない配慮の中から生まれるから。

問三ノ三 傍線部3「一連の問いかけが、恫喝めいた響きをもっている」とあるが、それは具体的にどのようなことか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、答三ノ三の欄にマークせよ。

ア…この恫喝が、他者からの自己同一性の問い質しであり、「僕」の内部に期待された自己像を見出すように強いるということ。

イ…この恫喝により、「僕」が歴史的責任を果たすべく、虚構の自己像をすすんで引き受けるようになるということ。

ウ…この恫喝が、「僕」の来歴を問い質し、「僕」が日本人ではないにもかかわらず日本国民との血縁をもつことを暴くということ。

エ…この恫喝により、「僕」がその内部に意に反した自己像を見出し、自己同一性の危機に陥るということ。

オ…この恫喝が、他者からの自己像の押しつけであり、「僕」はそのために内部に予期せぬ葛藤を経験するということ。

問三ノ四 傍線部4「暴力の予感」を通過しないかぎり普遍性の問題は抽象的なままにとどまる」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、答三ノ四の欄にマークせよ。

ア…「暴力の予感」は、国籍・民族・人種・宗教などの多様な問題を普遍性の地平に見出すが、その解決策は具体的に示されないということ。

イ…「暴力の予感」が顕在化させる国籍・民族・人種・宗教などの要素を含まない普遍性は、今日のグローバル化の時代にふさわしくないということ。

ウ…「暴力の予感」は、歴史的な責任が問われるさまざまな局面で普遍的な対話の領域を切り開くが、その対話が実際には具体的な他者を欠いているということ。

エ…「暴力の予感」が可視化する国籍・民族・人種・宗教などの多様な指標を考慮に入れない普遍性は、その地平において実際には不可避な葛藤や対立を見逃してしまうということ。

オ…「暴力の予感」が要求する歴史的な責任の問いは普遍的なものだが、ここではさまざまな自己画定の問題が回避されてしまうということ。

問三ノ五 傍線部5「私の歴史の実存の掛け替えない事実性」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、答三ノ五の欄にマークせよ。

ア…歴史的責任は、それぞれの背後に歴史的悲劇を負った他者と私との出会いのなかで問われるのだが、現在、歴史的な責任はさまざまな指標にかかわる自己画定の問題が解消された世界を求めているということ。

イ…歴史的責任は、錯綜した国籍・民族・宗教の同一性を含む対話状況のなかで問われるのであり、それぞれの背後に歴史的悲劇を負った他者の詰問に応答しつつ、そのような他者と私が共生するということ。

ウ…歴史的責任は、歴史的悲劇を負ったさまざまな他者からの詰問を回避した地点においてこそ問われるのであり、そのような他者の住む世界に、国籍・民族・宗教を超えて私が投げ入れられているということ。

エ…歴史的責任は、ユダヤ系フランス人によって詰問されるドイツ系アメリカ人のような、国籍・民族・宗教といった三つの指標が錯綜する対話状況を構築することによって問われるのだが、現在、歴史的な責任はこのような指標をすべて可視化することを求めているということ。

オ…歴史的責任は、それぞれの背後に歴史的悲劇を負った他者と私との出会いのなかで問われるのだが、現在、それらの悲劇は対話状況のなかで解消されつつあり、潜在的に歴史的責任を私に向かって詰問してくるような他者と私が共生するということ。

問三ノ六 傍線部6「状況の一定の構造化を要請する「場」とあるが、この「場」とはどのようなものか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、答三ノ六の欄にマークせよ。

ア…ある個人が、「従軍慰安所」や「南京虐殺」などの日本軍や日本の国家が犯した犯罪についての告発に対して、説明責任を果たすことを可能にするために、「語りかける」ことができる人として非「日本人」が潜在的に「そこに居て」くれるような場。

イ…ある個人が、過去に国民、人種、あるいは民族が集団として犯した犯罪をただちにみずからの罪責として認めるのではなく、有罪性を検証し、「日本人」への自己画定を可能にするために開かれた場。

ウ…ある個人が、「従軍慰安所」や「南京虐殺」などの日本軍や日本の国家が犯した犯罪についての告発に対して、応答の発話行為の主体として「日本人」としての自己画定を行なうことを可能にするように、非「日本人」の仮想された存在が組み込まれた場。

エ…ある個人が、過去に国民、人種、あるいは民族が集団として犯した犯罪をただちにみずからの罪責として認め、応答の義務を引き受けるために、応答の発話行為の主体としてそれらの集団への自己画定をとりあえずおこなうことを可能にするような場。

オ…ある個人が、「従軍慰安所」や「南京虐殺」などの日本軍や日本の国家が犯した犯罪についての告発に対して、「日本人」として責任を取るために、非「日本人」へ「語りかける」ことを可能にするような場。

問三ノ七 傍線部7「歴史的責任は、だから、未来へ向かっただの変革の仕事とかかわっている」とある。この「変革の仕事」とは具体的にはどのようなことか。本文全体を振り返りつつ、一〇〇字以上一三〇字以内で記述せよ。(解答は記述解答用紙の答三ノ七の欄に楷書で記述すること。その際、句読点、括弧記号などもそれぞれ一字分に数え、必ず「マス用いる」こと。)

[以下余白]